



市議会だより

雲南
うん なん



6月2日に行われた斐伊川水防演習

令和元年 6月定例会

● 6月定例会報告	2
● 主な歳出補正予算／議案の審査と結果	4
● 委員会報告	5
● 一般質問	7
● 議長会要望	11
● 議会と語ろう会・編集後記	12

の補正予算を可決

297億9,430万円)

●永井隆記念館施設整備事業



5,539万円
(令和元年度分)

●交付金活用通学路整備事業 (三刀屋南側線他)



令和元年6月定例会を6月3日から19日までの会期で行いました。補正予算、条例改正など24件が上程されました。慎重に審議を行い、いずれも原案どおり可決・承認しました。また、議員発議2件の意見書を国に対して提出しました。

一般会計 3億4,330万円

(補正後総額)

●勤労者総合福祉センター管理事業
(サンワーク木次の空調更新)



1,681万円

●除雪機械整備 (除雪ドーザ購入)



2,074万円

令和元年6月 主な歳出補正予算（一般会計）

(単位：千円)

事業名	内容	補正額	補正後の額	備考
地域活性化センター 活性化事業補助金	UNNAN アートスタート実行委員会 が、アート体験や交流を通じて子育て環境 充実に取り組むための助成金	1,700	1,700	新規
協働で叶える市民活 動促進事業	「想いをカタチに市民活動協働促進事業」 を全面的にリニューアルするもの	2,000	2,000	新規
人事管理事業	障がい者雇用の拡大に向けて、市の臨時 職員を雇用するための賃金	3,305	88,220	
未婚の児童扶養手当 受給者に対する臨時・特別給付事業	本年10月からの消費税引上げに伴い給 付するもの	454	15,658	新規
中核的な経営体を目指 す自営就農者確保対策事業費補助金	これまでのリースハウ ス整備事業を組み替えるもの	9,892	9,892	
農村地域防災減災事業	決壊等の危険度が高く、適切な管理が困 難なため池を廃止するもの	16,060	16,060	新規

事業名	内容	補正額	補正後の額	備考
雲南中央地区中山間 地域総合整備事業負担金	雲南中央地区の採択 に向けた調査費の負担分増	450	1,000	
消費増税対策プレミア ム付商品券事業	本年10月からの消費税引上げに伴う低 所得者、子育て世帯主に対するプレミア ム付商品券の発行	69,528	69,528	新規
食の幸発信推進事業	建築設計プロポーザル選定委員の謝礼等	499	499	新規
食の幸発信施設整備 事業	施設整備に係る地形測量・造成設計等の 委託費	28,162	28,162	
除雪機械整備事業	除雪ドーザ（8t）1台購入	20,740	47,500	
交付金活用通学路道 路整備事業	三刀屋南側線、新市里方線、掛合高校線 等に係る歩道整備	27,500	39,700	
永井隆記念館施設整 備事業	記念館建設に係る建築・電気・機械工事 費等	55,390	55,390	

議案の審査と結果

承認	採決結果	採決状況
平成30年度雲南市一般会計補正予算（第7号） の専決処分の承認を求めることについて	可決	全会一致
平成30年度雲南市国民健康保険事業特別会計 補正予算（第6号）の専決処分の承認を求める ことについて	可決	全会一致
平成30年度雲南市農業労働災害共済事業特別 会計補正予算（第1号）の専決処分の承認を求 めることについて	可決	全会一致
平成30年度雲南市生活排水処理事業特別会計 補正予算（第1号）の専決処分の承認を求める ことについて	可決	全会一致
平成30年度雲南市土地区画整理事業特別会計 補正予算（第2号）の専決処分の承認を求める ことについて	可決	全会一致
雲南市税条例等の一部を改正する条例制定の専 決処分の承認を求めることについて	可決	全会一致
雲南市国民健康保険条例の一部を改正する条例 制定の専決処分の承認を求めることについて	可決	全会一致

一般事件	採決結果	採決状況
過疎地域自立促進計画の変更について	可決	全会一致
CD－I型消防ポンプ自動車購入契約について	可決	全会一致

発議	採決結果	採決状況
新たな過疎対策法の制定に関する意見書	可決	全会一致
視覚障害有権者への選挙公報の充実を求める意 見書	可決	全会一致

請願・陳情	結果
後期高齢者の医療費窓口負担の「原則1割」の継続を求める 請願	継続審査
主要農作物種子法の復活等をもとめる請願	継続審査
視覚障害有権者への選挙公報の充実を求める意見書の提出に ついての陳情（雲南地区視覚障害者協会 会長 田部博也）	採択

予算	採決結果	採決状況
令和元年度雲南市一般会計補正予算（第1号）	可決	賛成多数
令和元年度雲南市国民健康保険事業特別会計補 正予算（第1号）	可決	全会一致
令和元年度雲南市生活排水処理事業特別会計補 正予算（第1号）	可決	全会一致
令和元年度雲南市水道事業会計補正予算（第1 号）	可決	全会一致
令和元年度雲南市工業用水道事業会計補正予算 （第1号）	可決	全会一致

報告
議会の委任による専決処分の報告について
住宅使用料に関する権利（債権）の放棄について
水道料金に関する権利（債権）の放棄について
病院医療費に関する権利（債権）の放棄について
平成30年度雲南市一般会計繰越明許費繰越計算書
平成30年度雲南市土地区画整理事業特別会計繰越明許費繰越計算書
平成30年度雲南市水道事業会計予算の繰越について

議案の賛否状況です。議長は裁決に加わりません。

「○」…賛成 「●」…反対 「－」…欠席

議案名	採決結果	上代和美	中林孝	松林孝之	中村辰真	原祐二	矢壁正弘	白築俊幸	細木照子	佐藤隆司	藤原政文	西村雄一郎	土江良治	安井 誉	細田 実	藤原 信宏	堀江 眞 強	周藤 治之	小林 眞二	深田 徳夫	周藤 正志	山崎 正幸
令和元年度雲南市一般会計補正 予算（第1号）	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

委員会報告

総務常任委員会報告

委員長 松林孝之

(議案の審査)

本委員会に付託及び委託された3件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(条例等の審査状況)

・CD-I型消防ポンプ自動車購入契約について
消防自動車購入契約を結ぶための議案です。どこに配車するのか、車両更新・配車計画はあるのかとの問いに、当該車両は掛合方面隊掛合下分団に配車し、更新・配車計画に従い実施しているとの答弁でした。

・過疎地域自立促進計画の変更について

食の幸発信推進事業とケーブルテレビの災害緊急し字システム整備を加える変更です。ケーブルテレビし字放送システム概要はとの問いに、これまで文字入力テレビ局で行うことしかできず、緊急時にタイムラグが生



平成29年度に購入した消防ポンプ車

(主な予算の審査状況)

令和元年度雲南市一般会計補正予算(第1号)
・人事管理事業330万円は、障がい者雇用の拡大に向けて臨時職員3名を9カ月雇用するための賃金です。国が定める就労者比率と現況人数はと

の問いに、公的機関は2・5%。直近2年連続で就労の応募が無かったこともあり現況2・25%である。現在9名である1名の雇用で2・5%に達するとの答弁でした。応募が無かった要因はとの問いに、原因は追究していないが、過去の経過から正規・非正規問わず、柔軟な対応で促進を図るとの答弁でした。職場環境の充実等で応募が増えるよう求めました。
・協働で叶える市民活動促進事業補助金200万円は「想いをカタチに市民活動協働促進事業補助金」のリニューアル版です。前制度より市との協働が強調され活動の自由度が限定されるのではないかと問いに、公益性を高めるためには協働が必要。決して限定するものではないとの答弁でした。広い分野にわたる活動支援であるからこそ一律ではなく、市が寄り添って支援すべき。継続

の補助申請への対応はとの問いに、様々な分野の助成制度もあり、他部局

と連携を図り一緒に進めるとの答弁でした。

教育民生常任委員会報告

委員長 矢壁正弘

(議案の審査)

本委員会に付託及び委託された2件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(主な予算の審査状況)

令和元年度雲南市一般会計補正予算(第1号)

・原子力・エネルギー教育支援事業139万円は、教育に係る備品の購入費となっているが、何を購入するのか。また、教育内容はとの問いに、事業の希望をとったところ中学校1校から申請があった。県に補助金の申請を行い交付が決定したもので全額県の補助金である。放射線の性質を調べる実験器具や放射線関係のDVDを購入する予定としている。教育内容は、これらの実験器具を



敷地整備中の永井記念館

使用し、理科担当の教諭が放射線が自然界にどのように存在するのかなどを教えるとの答弁でした。
・永井隆記念館施設整備事業5,539万円は、工事監理、建築工事、電気工事、機械工事等であり、3月末の実設計完了により令和元年度分を

委員会報告

補正予算計上するものです。債務負担行為を設定し、令和2年度末の工事完了を目指すとしているが、令和元年度と2年度の工事内容や事業費、債務負担行為の内容がわかりにくいとの問いに、今回補正予算に計上したのは、建築主体工事と電気設備工事、機械設備工事の2カ年にわたる契約の一部である。債務負担行為の2億7,800万円は、建築主体、電気設備、機械設備、展示制作であり、外構工事とモニメント制作については、令和2年度発注を考えている。債務負担行為が2カ年にわたっているのは、展示品の制作を今年度に契約し、その支払いが令和2年度になるためとの答弁でした。「平和の鐘」モニメント制作については、約2,500万円を想定しており財源として、プロジェクトに共感し寄付が出来る「ガバメントクラウドファンディング」の手法を活用する。永井隆博士の業績や愛と平和の精神を全国に発信し、事業の財源確保を行うとの説明がありました。

また、当事業は当初の完成予定より大幅に遅れているが、地元住民に対し丁寧な説明が必要ではないかとの問いに、住民に対し適切に説明をする義務がある。きちんと伝えられるように取り組んでいくとの答弁でした。議会側もいろいろな場面で指摘を受けている。きちんと説明を行うよう求めました。

産業建設常任委員会報告

委員長 原 祐二

(議案の審査)

本委員会に付託及び委託された4件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(主な予算の審査状況)

令和元年度雲南市一般会計補正予算(第1号)

・清嵐荘管理事業300万円の増額は、指定管理開始までの予約業務、広報業務、ホームページ更新業務等の費用です。管理事業費は、当初予算で317万円が計上されたが、なぜ6月に補正が必要なのかとの問いに、当初予算では、光熱水費、

草刈業務等の管理委託、賃借料を計上した。指定管理者を昨年12月に決定し、万全な開業へ向け1月から協議を重ね、予約ほか業務委託の必要性を確認したため、補正予算での提案となったとの答弁でした。また、職員の接客研修費は含まれているのかとの問いに対し、社内研修、同業他社での実地研修が予定されているが、業務委託に適していないため計上していないとの答弁でした。今後指定管理者への支援業務をしていくのかとの問



完成間近の国民宿舎清嵐荘

いに対して、オープンまでの準備支援であり、今後の管理業務は指定管理者で行ってもらうとの答弁でした。広報業務については、すでに作成されたチラシ案内図に観光の視点を取り入れることや清嵐荘の魅力を発信、集客イベントの開催、既存の事業者への配慮を求めました。

・食の幸発信推進事業49万9千円は、先進地視察経費、謝礼金、管理手数料など事業推進のための予算です。先進地視察の目的と視察先はとの問いに、JAの担当者が交代され中四国管内の同規模施設の取り組みと運営課題を研修したいとの答弁でした。視察先の選定には、農産品の生産や販売、食の幸の魅力開発につながる視察を求めました。

令和元年度雲南市水道事業会計補正予算(第1号)

・取水配水設備拡張改良費150万円の増額は、三刀屋町森ノ本東住宅団地造成に伴う配水管及び給水管の新設工事です。なぜ、当初予算に計上できなかったのかとの問いに、土地開発公社が行った造成地の概略設計が2月から3月に行われたため、当初予算には間に合わなかった。また、将来的な造成計画に合わせた東側の工事が必要ではないかとの問いに、公社との協議により必要であれば準備をするとの答弁でした。

一般質問

基本的に本人提出の原稿をそのまま掲載しております。質問項目すべてを載せているものではありません。

「一部行き過ぎた発言」をされた認識は



佐藤 隆司

問 新聞では「特に松浦市長と速水市長は街頭演説で丸山知事になれば島根県は壊れるなどと厳しく丸山陣営の批判を繰返した」とあったが、その報道は正しいのか。

答 大庭候補は自民党推薦、丸山候補はそれ以外の県議会議員が応援された自民党が二分した激しい選挙戦であったため、仮に丸山氏が制されれば「県政において大変な混乱が生じるのではない

か」との思いだ。

問 丸山知事や県議会議員と「しこりや問題」はないか。

答 全くない。

問 市長は大庭候補の街頭演説で「丸山候補を推しているのは県議会を牛耳っている特定の県議会議員と特定の業界」また「傀儡政権以外の何ものでもない」と言われたか。

答 発言はしたが、それは大庭陣営の共通認識だ。

問 松江市長は「一部行き過ぎた発言」と報道されたが、市長も同様の発言をされたのではないか。

答 松江市長は私の発言とは別の表現もしておられたので、そこら辺のことを言われている。

防災ハンドブックの改訂版は



堀江 治之

問 防災ハンドブックが平成26年に改訂されたが、その後の改訂は。

答 土砂災害、浸水害の基準が年々変わっており見直しをしていない。

問 防災に関する各種基準が改訂されているが、近いうちに防災ハンドブックの改訂版を出す考えはないのか。

答 土砂災害、浸水害において避難勧告等のガイドラインの改訂、土砂災害特別警戒区域の調査結果、また、国県管理河川の最大浸水想定区域も公表されており、防災ハンドブックとハザードマップの更新を来年度に向け実施するよう進める。

問 市内の災害指定避難所73カ所のうち地震、水

害、土砂災害の適用性ありはそれぞれ何カ所あるのか。

答 地震が63カ所、浸水害が64カ所、土砂災害が33カ所となっている。

問 来年度実施計画のデジタル防災行政無線の受信機のアつかいの考え方は。

答 基本的には全世帯無償貸与の考えであるが、詳細については、今後、検討が必要である。

道路の路面標示整備について



細木 照子

問 いま道路標識も変色してかすれた物がある。

路面標示も、重要な停止線や、横断歩道や右折車線標示が薄れたり、消えたものがある。

高齢の方が時々通られ

る場合などは、特に路面標示類に大きく頼られることになる。

いま、高齢者による交通事故が大変多発しており、事故防止に役立つことには先手を打っては非対処して欲しい。

答 運転者の視線誘導を行う路面標示は非常に有効である。管理計画に基づく箇所や、要望による緊急性の高い箇所から実施している。国道は5月末に要望し、県道は6月10日に要望する。

問 市内の地域交流センターなど公共施設の音響設備の音質が悪い。特に高齢になり聴力が衰えるとうワン・ウワンとこもった音になり、言葉としての識別が出来かねる。早急な改善が必要だ。

答 古いもの、劣化によるものもある。利用状況を勘案し、緊急性や必要性に応じて更新したい。※この他、6項目の質問をしております。

臨時・非常勤職員の
処遇改善を



周藤 正志

問 10月からの幼児教育の無償化は、在籍している子ども1,228人のうち793人が対象だ。今後、市からの持ち出しはなく、100%国が補てんしてくれるのか。

答 保育料の無償化分については、国の地方交付税等で措置される。

問 年収360万円以上の世帯で保育所に在籍している3歳以上児については、給食の副食費分を負担してもらうことになるが、無償化の趣旨からいっておかしい。どう対応するのか。

答 負担が増えることがないよう検討中であり、早く方針を示したい。

問 これまで曖昧だった臨時・非常勤職員の任用

根拠が明確にされ、来年度から会計年度任用職員制度がスタートする。市では現在468人の正規職員に対し、240人の臨時・非常勤職員がおり、なくては業務が成り立たない状態だ。運用にあたって、全ての職で処遇改善が図られるのか。

答 制度の趣旨からいって処遇改善につながると考えており、最大限努力する。

森林環境譲与税は
森林源流域に



矢壁 正弘

問 森林環境譲与税の配分は、荒廃が進む源流域の森林整備が基本だと考

えるが、人口の多い大都市が優遇されている。国に見直しを要求すべきだ。

答 配分割合は、森林面

積50%、人口30%、林業従事者20%だ。林業従事者数を多くすることが肝要。

問 滋賀県大津市で、散歩途中の保育園児の列に車が突っ込み幼い命が犠牲になった。市内の道路の車道と歩道の境に強固な安全施設が必要では。

答 交通事故の危険性のある箇所については、公安委員会など関係機関と協議し、安全対策を行う。

問 災害に対応した災害対応型自販機や災害対策自販機がある。設置拡充の考えはないか。

答 市内に21台の災害対応型自販機を設置している。災害対策自販機についても、支援して頂ける事業者と協議を進めながら検討していく。

問 今年は降水量が少なく、夏場の水不足が懸念される。本市の対応は。

答 本市の水源は表流水の他、伏流水や地下水など使用している。不足する状況には無いと考える。

学校給食費の
無料化は



深田 徳夫

問 幼児教育の無償化が始まる、主食費・副食費は保護者負担となる。これまで市単独で支援した財源を以って、給食費の無料化の政策はどうか。

答 市独自の減免等で、



工事がはかどらない国道54号（尺の内）

保育料が無償の幼児の負担が増加する場合、措置の方向で検討する。

問 人口の社会増を目指すには、大胆に子育て支援として小・中学校の給食費無償化の考えは。

答 目的からかなり強力な手段は認識するが、財源の確保が問題であり難しい。十分に検討する。

問 国道54号線尺の内の完成予定、柳橋付近の改良計画はいつ示されるか。

答 無電柱化の推進区間であり、国交省は電線事業者と協議中、完成時期は明示がない。早期完成への要望書を提出した。

問 高齢者対策など全く未整備な公営住宅がある。

答 基準を満たしていない住宅は、長寿命化計画の中で建替えを行う計画。

問 個人住宅の優良な宅地の供給は重要、宅地開発計画はいかに。

答 市の総合計画の後期計画の中で協議していく。

一般質問

民意の合意形成をどう進めるか



中林 孝

問 民意の合意形成をどう進めるか。

答 合併以降、市民と行政が協働したまちづくりを進めるため自主組織を立ち上げ、自分たちの地域を自分たちで作り上げていく取り組みを進めてきた。

問 民意の施策への反映方法について伺う。

答 アンケート、各種会合での意見交換、円卓会議を踏まえて政策立案して予算要求、議会に諮る。

問 審議会、アンケート
円卓会議等はあるような
使い分けか。

答 特に基準は設けていない。パブリックコメントは実施要綱を定めて対応している。

問 住民投票をしなければ

ばならないような場面は。

答 市の将来を決めるような事案、民意が大きく割れているような事案を想定している。

問 島根原発の再稼働を巡り民意の合意形成をどう図るか。

答 稼働の必要性が明確にされ、市民の十分な理解が得られることが大前提である。原子力発電所安全対策協議会、原子力安全顧問会議、市民には住民説明会を通して議論を重ねる。

子育て支援の 課題と対策は



原 祐二

問 産後ケア事業の実態と課題、人員体制は。

答 事業は、市立病院への委託により実施しているが、利用者が少ないた

め、需要がないのか、使
いにくいのかを把握した
い。市立病院では、有資
格者による体制をとって
いるが十分ではない。

問 子育て世帯の社会増には、移住希望の多い地域（大東・加茂・木次・三刀屋）への保育施設の整備が必要では。

答 企業主導型保育施設（木次町山方）の開設や木次こども園の建設により定員増を図るが、地方創生のプロジェクトチームでの検討も進める。

問 保育士不足による争



施設の拡張が望まれる三刀屋保育所

周辺部の人口 減少対策は



藤原 政文

奪戦が激しくなる。保育士確保のために、奨学金支援制度の創設を。

答 検討段階の状況だが、今後さらに検討を加える。

問 市民一人ひとりができる、子どもの貧困対策（未来応援基金など）を周知すべきだ。

答 市では、包括的な相談対応を行い、必要な支援機関につないでいる。市民ができる、支援制度の周知方法を考える。

問 いわゆる「周辺部」

答 周辺部の人口減少に対することは、「行政の責務」との声がある。この声に對する市長の決意を伺う。

策は喫緊の課題だ。今ま

で以上に定住環境の整備
子育て、教育、仕事、雇
用、住まいなどに特に力
を入れる。また、安心・
安全、不便のない生活が
保障されなければならな
い。道路、インターネット
ト環境の整備も急がれる
しつかりと取り組む。

問 都会の方が地方に住み、人手不足の業種で働き手として活躍していたくようにする「特定地域づくり協働組合制度」が国で議論されているがこの制度に対する所感は、

答 本制度は、中山間地にとつてはありがたい制度だ。本市も地域自主組織の法人化により取り組むことも必要だ。

問 読書、図書館利用の促進のために読書通帳導入の考えはないか。

答 読書を支える環境整備として、キヨロパスの
 通年利用、学校での読書
 マラソンがある。読書通
 帳導入は、他図書館の取
 り組みをみて検討する。

国保料の子ども の均等割軽減を



上代 和美

問 年間400万円の夫婦と子供2人のモデル世帯で2018年度の雲南市の国保料と協会けんぽ加入世帯の保険料を比較すると、国保料は42万1,564円、協会けんぽは20万2,600円となりほぼ倍になる。同じ子育て世帯でありながら、加入している保険料の差があつていいのか。全国市長会も子育て世帯の負担軽減を図るため、子供に係る均等割保険料を軽減する支援制度を創設することを国に提言している。全国でも25自治体、県内では浜田市が一部軽減を行っている。協会けんぽとの保険料の差を考えれば雲南市も独自の支援をすべきではないか。



10月のグランドオープンにむけ整備が進む雲南市立病院

答 人数に応じた均等割負担は法律で定められているという実態だ。全国市長会を通じた提言によつて均等割軽減を国に求めていく。

問 岩手県の宮古市は今年から子育て世帯の均等割を全額免除する。格差是正のため税金を投入すべきではないか。

答 国民健康保険法の制度に基づいてやっていく。

脳脊髄液減少症に 対する理解促進を



中村 辰眞

問 埼玉医科大学の研究により、脳脊髄液減少症と起立性調節障害の間には深い因果関係があるのではないかとということ。徐々にわかりつつある。ともにめまいや頭痛といった共通する症状もあり、学校へ行けない状況が起こる。これを怠慢と誤解をし、誤った対応をすれば、不登校につながる。これを防ぐためには、教職員の理解をより深くする必要がある。理解促進に対する取り組みについて伺う。

答 脳脊髄液減少症や起立性調節障害がいによるめまい、頭痛などの症状によつて学校に行けない子供たちへの対応が課題と

なっている。学校に行きたいのに行けない、心身の苦痛や周囲の不適切な対応から不登校に陥るケースが報告されている。このような状況を防ぐには、まず教職員が適切な対応について理解を深め、保護者、医療機関と連携し、支援していくことが大切である。

養護教諭や不登校担当者の研修などを通じて積極的な情報提供に努め、全教職員の理解促進を図っていく。

非正規職員の 処遇改善をはかれ



細田 実

問 法律の改正により地方自治体で働く臨時・非常勤職員の位置づけが会計年度任用職員として明確になった。雲南市でも

704名の職員中240名の臨時・非常勤職員が雇用されている。実に3分の1が非正規職員だ。雇用実態と業務内容を問う。

答 さまざまな任用期間や勤務形態となっている。事務補助的な業務や、看護師、調理師などの資格が必要な業務など多岐にわたっている。

問 本来は正規職員で対応する仕事も非正規職員で対応している現状にある。法改正の趣旨は非正規職員の処遇改善を行っていくことにあると思うがどうか。

答 今回の法改正はいわゆる非正規職員の処遇改善が目的と受け止めている。法律上、期末手当とか一時金などの支給が出来るなど、大幅な改善が図られていくのではないかと思っている。

9月定例会で条例提案、職員募集、採用の手続きに入っていきたい。

一般質問

一歩先行く 雲南市の構築を



松林 孝之

- 問** 消費税の増税に伴い、国から様々な分野に向けた福祉の向上と経済の活性化の方針が示された。本市は人口の社会増を目標に他自治体より先駆的に取り組んできた。しかし、今後は全国的で同様の施策が展開されるが、どう捉えているか
- 答** 本市の取り組みや方向性が、間違っていないかと捉えている。
- 問** 全幼児の給食費の無償化や住宅施策、子育て施策の拡充等、これまで同様に一歩先を行く雲南市のスタンスで臨むのか
- 答** これまでの施策展開と同時に、チャレンジの連鎖に企業チャレンジを加えたソーシャルチャレンジバレー構想を軸に、



電動カートによる地域交通実証実験

- 一歩も二歩も先行く雲南市を目指す。
- 問** 高齢運転者による交通事故が多発する中、ヤマハ発動機との連携で新制度開発特区を目指してはどうか。
- 答** 中山間地域に限らず、どの都市でも実現できれば地方創生のみならず、日本創生であると思う。その過程で特区もあり得る中、本市はプラチナ社会構築を目標に進める。

議長会要望

- ・ 4月11日に江津市において、平成31年度春季島根県市議会議長会定期総会が開催され、雲南市からは「会計年度任用職員制度の導入に係る地方財政措置について」議案提出しました。
- ・ 5月29日に山口県防府市において、第144回中国市議会議長会定期総会が開催され出席しました。島根県からは、「子ども医療費助成制度の新設について」、「高速道路のネットワークの早期整備について」及び「山陰への高速鉄道の実現について」の3議案が提出され採択されました。
- ・ 6月10日には第95回全国市議会議長会が開催され、9部会から27議案が提出され採択されました。今後、国に対して要望活動が展開されます。
- また、地元選出国会議員と島根県市議会議長会との意見交換会ももたれました。

議員表彰

永年の地方自治の発展に貢献した功績により、次の議員が表彰を受けました。

○全国市議会議長会 議員特別表彰 (議員25年以上)

安井 誉

議員一般表彰 (議員10年以上)

周 藤 正 志
西 村 雄 一 郎
佐 藤 隆 司

○中国議長会 正副議長特別表彰 (正副議長6年以上)

藤 原 信 宏

議員特別表彰 (議員28年以上)

小 林 眞 二

(議員24年以上)

細 田 実

(議員16年以上)

藤 原 政 文

(議員12年以上)

細 木 照 子
土 江 良 治

議会と語ろう会

これまで議会報告会として開催してきましたが、今回から、開かれた市議会を指して、「議会と語ろう会」に名称を変更し開催することとしました。

今回は、4月11日から5月13日まで市内5会場で開催し120名の参加があり、多くの意見をいただきました。その一部を会場別に紹介します。

(大東会場)

- ・議員定数削減と聞いたが削減して大丈夫か。
- ・雲南市の振興、活性化について、どのようなイメージを描いておられるか。
- ・また良い観光資源、和食、伝統芸能や外国人観光者の呼び込みなど県と話し合いされているか。

- ・デジタル防災無線に10億円かかると聞く。各家庭にいつ設置されるか。

(加茂会場)

- ・三代原ファームの畑で出来た農産物の販路拡大や6次産業化にどう取り組むか。
- ・自然エネルギーを活用する会社は儲けがあるのか。

か。雲南市も電力を地産地消する考えがあるのか。

- ・デジタル防災無線は、雲南市全体を網羅する計画か。

(木次会場)

- ・清風荘や中心市街地にホテルができるのは観光にとってチャンス。雲南地域全体を魅力ある観光ルートにしなければなら

- ない。吉田ふるさと村が清風荘の指定管理者になるが、同社だけでは無理。行政、観光協会、商工団体等が丸となり観光客誘致のPRをしなければならぬ。
- ・中山間地域の維持が非常に難しくなっている。過疎、高齢化について検討されていると思うが、田舎に住んで生活ができること、それが何かを考えていただきたい。

(三刀屋会場)

- ・永井隆記念館は来年4月にできる予定だったので、世界平和のことを発信するチャンスと思っていた。工期が1年延期になった。なぜ三刀屋の住民が知らない間に延ばしてしまうのか。



パワーポイントも利用した「議会と語ろう会」

- ・清風荘事業が増額となつていのが納得できない。最初に計画した範囲内でやるべき。増額するなら1部屋減らすとかし
- て。
- ・福祉推進員は、担当世帯が60戸でも700戸でも報酬は一緒であるが、平準化に逆行している。

(吉田会場)

- ・雲南市全体で防犯対策、防犯カメラを検討いただきたい。一人暮らしの方が多くなり、強盗が入り金品を盗むという事例がある。不法投棄の予防にもなると思う。
- ・ドクターヘリが梅木の方に降りる。そこは散水せねばならぬ。吉田2カ所でもいい。簡易ヘリポートを作ってほしい。

編集後記

3年連続でコウノトリが営巣、自然繁殖しました。コウノトリにとっても雲南市は自然豊かで食べ物豊富、安心安全で子育て環境に適した土地のようです。

昨年、一昨年は電柱の上での子育てでしたが今年は西小学校の人工巣塔での繁殖でした。電線などの危険性が少なく、巣の材料となる小枝が豊富な場所です。

さて昨秋、加茂町にもう1基の巣塔が設置されました。

た。ここは10年前、初めてコウノトリが雲南市に飛来した場所で、えさは豊富、材料となる小枝にも事欠きません。来年は複数個所で営巣、子育てが期待できそうです。

人間もコウノトリも子育てができる環境は同じようです。安心安全は勿論、食べ物(仕事)や居住施設(環境)の充実が必要です。子育て環境の充実が行政の大仕事の一つです。少子化対策のヒントがコウノトリにあります。

(孝)

請願・陳情の提出について

9月定例会の請願・陳情は9月4日17時までに、議会事務局へ直接提出して下さい。

上記の受付期間を過ぎた請願・陳情は、次回定例会での審査となります。

議会広報広聴特別委員会

委員長	中村 辰真
副委員長	中林 孝
委員	上代 和美
	白築 俊幸
	細木 照子
	藤原 政文
	藤原 信宏
	周藤 正志